

ぼくが生きてる、 ふたつの世界

伝えられない想いが
あふれます。



監督:呉美保 主演:吉沢亮 脚本:港岳彦

忍足亜希子 今井彰人 ユースケ・サンタマリア 烏丸せつこ でんでん

原扶貴子 山本浩司 河合祐三子 長井恵里

原作:五十嵐大「ぼくが生きてる、ふたつの世界」(幻冬舎刊) 企画・プロデュース:山国秀幸

製作:「ぼくが生きてる、ふたつの世界」製作委員会(ワンダーラボトリー/特製監理VFX:タツノビクチャーズ/ギャガ/JR西日本コミュニケーションズ/アイノアミューズ/河合新社/東日本放送/ネットテレビ)

助成:文化庁文化芸術振興費補助金(映画創造活動支援事業) 独立行政法人日本芸術文化振興会

©五十嵐大/幻冬舎 ©2024「ぼくが生きてる、ふたつの世界」製作委員会 配給:ギャガ GAGA gaga.ne.jp/FutatsunoSekai/

母に背を向け、故郷を離れたぼく——。

繊細に紡がれる、きこえない母ときこえる息子、そしてあなたの物語。

GAGA★
GAGA GROUP



親子の物語が、そしてひとりのコーダの心の軌跡が、点描のように紡がれていく——。監督は、本作が9年ぶりの長編作品となる、『そのみにて光輝く』『きみはいい子』の具美保。作家・五十嵐大氏の自伝的エッセイを原作に、脚本は『正欲』の港岳彦。吉沢亮が、「きこえる世界」と「きこえない世界」を行き来しながら生きる主人公を体現、自身の居場所を見出していく若者の心を繊細に演じた。母・明子役には、ろう者俳優として活躍する忍足亜希子。

やがて母への想いが観る者の胸にも静かに温かく満ちていく、心に響く映画が誕生した。

母と息子、切なくも心に響く家族の物語

Story

宮城県の小さな港町、五十嵐家に男の子が生まれた。祖父母、両親は、「大」と名付けて誕生を喜ぶ。ほかの家庭と少しだけ違っていたのは、両親の耳がきこえないこと。幼い大に

としては、大好きな母の“通訳”をすることも“ふつう”の楽しい日常だった。しかし次第に、周りから特別視されることに戸惑い、苛立ち、母の明るささえ疎ましくなる。心を持って余したまま20歳になり、逃げるように東京へ旅立つ大だったが……。



多賀城市地域共生社会シアター「ぼくが生きてる、ふたつの世界」シネマ上映会

2026年 1月17日(土) 多賀城市文化センター大ホール

①10:30 ②13:30

1回目が満席の際は2回目の回にお回りいただくこともございます

前売券 1,200円

当日券

一般 1,500円 大学生 1,300円 小中高生 800円

【前売券取扱所】多賀城市文化センター、多賀城市社会福祉協議会

【主催】多賀城市社会福祉協議会

【共催】多賀城市

【後援】多賀城市教育委員会

【協力団体】多賀城市町内会長連絡協議会、多賀城市民生委員児童委員協議会、多賀城市身体障害者福祉協会、多賀城市ボランティア連絡会、多賀城市老人クラブ連合会、多賀城市遺族会、多賀城市手をつなぐ育成会、多賀城市母子福祉連合会、多賀城市人権擁護委員、多賀城市婦人会連合会、多賀城市更生保護協議会

【お問合せ】多賀城市社会福祉協議会事務局 022-368-6300